

平成 27 年 6 月 15 日

目黒区在宅医療・介護連携に関する研修会

## 「かかりつけ薬局との連携」

目黒区薬剤師会前会長／司生堂薬局 薬局長

中村 忍

## I 薬剤管理指導とは

\* 薬局で調剤を行い、訪問先の患者宅で投薬・服薬指導を行う

薬歴管理、服薬指導、薬剤服用状況及び保管状況の確認  
薬学的管理指導計画の策定

「在宅患者訪問薬剤管理指導」⇒ 医療保険

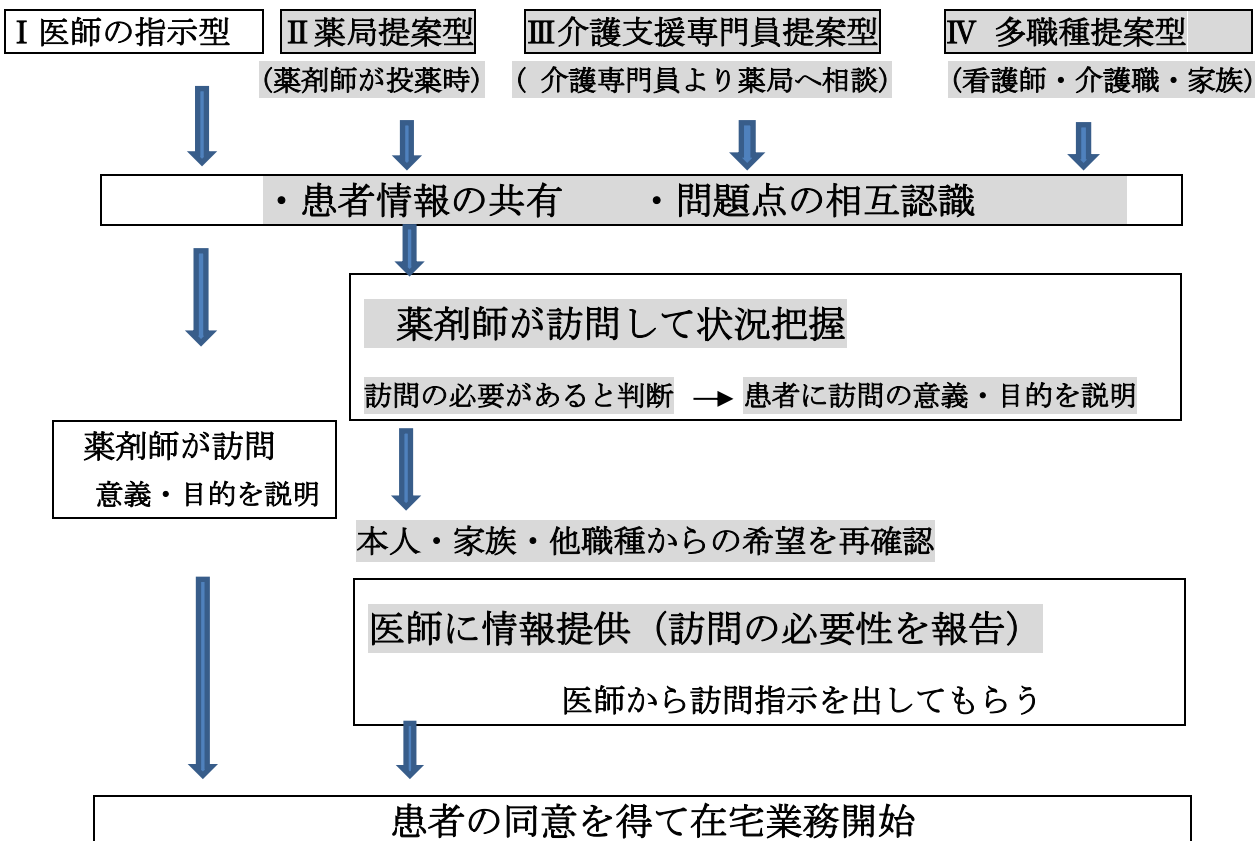
「居宅療養管理指導」⇒ 介護保険

介護認定があれば、介護保険が優先する。

## II 「訪問薬剤管理指導」「居宅療養管理指導」業務の流れ

- ① 処方箋・情報提供書の発行
- ② 患者情報の入手 (ADL・副作用歴・生活パターン・主介護者等)
- ③ 医師や他のスタッフとの打合わせ
- ④ 患者宅へ訪問して投薬・指導 (調剤は薬局内で行う)
  - 1) 訪問の事前確認、携帯品のチェック
  - 2) 服薬指導、残数の確認・服薬状況の確認
  - 3) 体調等食事摂取の確認
  - 4) 薬の保管方法の確認、指導
- ⑤ 報告書の作成
- ⑥ 医師への報告 (介護支援専門員へも報告)

### Ⅲ 在宅療養業務に至る4パターン



日本薬剤師会「在宅服薬マニュアル (H23年7月版)」より

### Ⅳ 在宅医療での薬剤師の業務

- ① 効果と副作用の説明、副作用の発現がないか確認
- ② 薬が飲みづらい場合は、薬剤師が医師に剤形の変更を提案
- ③ 一包化・お薬カレンダーでコンプライアンスの向上  
他の医療機関からの投薬分との併用・残薬の処理  
湿気・日光・高温から薬剤の保護
- ④ 処方薬と市販薬・健康食品や普段の食事での注意点
- ⑤ 介護用品や衛生用品などの相談  
・褥瘡予防や介護用品の紹介や介護方法、その他衛生用品の相談
- ⑥ 住環境の衛生面での指導・助言  
・シーツや部屋の消毒方法の説明

## V コンプライアンス低下の原因と対処

- 何の薬か、いつ飲むのか、1回の服用量が分からなくなる。
- 食事を取らない、水分の制限があるので服用しない。
- 依存症への不安、継続服用で薬の効きが悪くなる。
- 自分で薬に優先順位を付け、一部の薬のみ服用してしまう。
- 副作用の不安で自己判断（強い薬は使いたくない）による休薬。
- 嚥下困難、錠剤の取り出しができない、キャップが外せない、軟膏が絞れない。
- 服薬の姿勢が保てない、視覚・聴覚・失語・認知
- 体調に変化がない等症状に合わせて使用、調子が良いと飲むのをやめる。
- 経済的理由

## VI 在宅医療での服薬支援

- ・在宅成分栄養経管栄養法
- ・粉碎・脱カプセルの溶解方法等チューブが詰らないよう工夫指導する。
- ・粉碎になじまない薬剤の場合、薬剤や投与方法の変更も処方医に提案する。
- ・在宅中心静脈栄養法
- ・カロリー輸液、アミノ酸、脂肪乳剤、その他患者宅への配達
- ・混合する薬剤の、混合するタイミング、保存の期間の指導
- ・在宅悪性腫瘍患者の疼痛治療
- ・疼痛緩和ケア、在宅でのADLの維持を図る。
- ・オピオイド鎮痛剤の適正使用の指導と管理指導
- ・副作用発現の情報伝達と発見

※区ホームページの掲載では、事例を省略しております。